

リモート治験 — 当院に来院せず新しい治療を



薬物療法部 医長

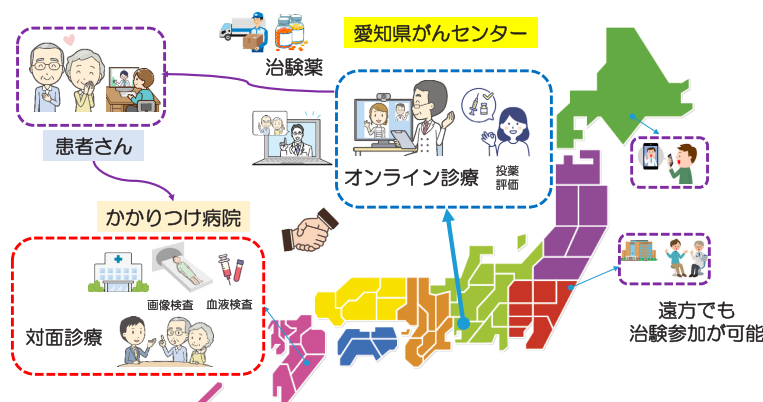
谷口 浩也

治験とは、新しいお薬を誕生させるために行われる人を対象とした臨床試験のことです。当院は、先進的ながん医療の実現を目指し、未承認薬の治験に積極的に取り組んできました。治験は、国が定める厳密なルールのもとに行うため、限られた医療機関でしか行いません。患者さんは、治験に参加することで、いち早く未承認薬を用いた治療を受けることができます。そのため、愛知県内・県外の遠方から、長い時間をかけて当院に通院される患者さんや、通院が困難で治験の参加を諦めざるをえない患者さんが多くいらっしゃいます。また、かかりつけ医療機関から、治験参加のために当院に患者さんを紹介いただく場合には、一時的に診療が途切れてしまうことから、患者さんもかかりつけ医も不安に感じられることがあります。

これらの課題を解決するため、当院が取り組んできたオンライン診療システムを活用して、進行がんの患者さんが当院に来院されることなく、新薬の治験に参加できる仕組みを作りました。治験に必要な血液検査、画像検査等は患者さんが今まで通院されていたかかりつけ病院で行い、治験で用いる治療薬は患者さんの自宅に配送します。当院の担当医師および治験コーディネーターは、電話やオンライン診療システムを活用して治療が安全に行えるよう患者さんやその家族をサポートします。また、かかりつけ医とも連絡を密に行い、協力して患者さんの診療にあたります。

がん遺伝子パネル検査で特別な遺伝子変化が見つかった場合や希少がんなど、対象者が少ない治験で特に有用と考えています。全国初めての取り組みとして、厚生労働省、日本製薬工業協会、学会、患者団体など各方面から注目されています。かかりつけ医と協力しつつ、患者さんの安全面を第一優先に、新型コロナウイルス感染症克服後のニューノーマルとして取り組んでいきます。

オンライン診療を活用した完全リモート治験



副院長就任のあいさつ



副院長
花井 信広

2022年5月1日付けで副院長を拝命しました花井信広です。私は1996年名古屋市立大学を卒業。頭頸部外科のスペシャリストを目指し、2000年愛知県がんセンターのレジデントを経て研究所（当時の発がん制御研究部）にもお世話になりました。大学での研鑽後、2007年からは愛知県がんセンター頭頸部外科部の医長を、また2018年からは頭頸部外科部の部長を務めています。外科手術はもちろんのこと、治験・臨床試験にも積極的に関与し、本年度からはJCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）の頭頸部がんグループ事務局も務めております。

この度の副院長就任に際し、山本一仁病院長からは病院機能・質改善および情報セキュリティに関する業務を仰せつかりました。これらの業務の関与する内容は幅広く多岐に渡り、課題点も多いのですが、簡単に言えば「より良いがんセンターを目指す」ことであります。選ばれる病院であり続けるため、がん患者さんや県民の方々のニーズ・期待を十分にくみ取り、また時代の要請に応えることが必要です。僭越ながら組織全体を視野に含め、尽力していきたいと存じます。また日常の診療業務にも通じることですが、がんセンター全体がチームとして力を発揮できるよう補佐いたします。皆様とよく協力し、病院長とも密に連絡を取り、業務に邁進する所存です。ご指導・ご支援いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

安全・安心な薬物治療の推進に取り組みます

～薬剤部～



薬剤部長
内田 幸作

本年4月に薬剤部長を拝命しました内田幸作です。

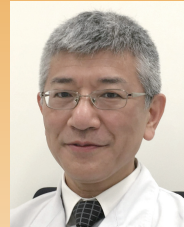
現在、薬剤部では部長をはじめ、がん専門薬剤師等を含む総勢24名により薬物治療が安全・安心に行われるよう、日々業務を行っております。

主な業務は、調剤業務（注射薬剤、特に抗がん剤ミキシングやTPN製剤業務を含む）・DI業務・治験薬管理業務などサプライ業務から医薬品安全管理、情報収集・提供など多岐に渡ります。また、医薬品の安定供給確保が新たな課題となっており、代替薬の選定や複数の購入ルートの確保など安定供給に努めています。

近年、医師への業務負担軽減、ひいてはリスク低減、患者本位の医療へ繋がるタスクシフト／シェアの重要性が高まっています。PBPMとは医師・薬剤師などにより事前に作成・合意されたプロトコルに基づく薬物治療管理のことですが、薬剤部においても、PBPMマニュアルを定め、これを実践することで、薬剤師の専門能力に基づく薬物治療の高度化や安全性の確保、医師の業務負担軽減などが推進されるよう、薬剤師による処方支援に取り組んでおります。

医療安全及び薬物療法の質の向上に取り組みます

～臨床薬剤部～



臨床薬剤部長
加藤 正孝

本年4月に臨床薬剤部長を拝命しました加藤正孝です。

「臨床薬剤部」とは聞きなれない言葉かもしれませんが、従来の薬剤部の病棟薬剤業務を担っていた部門を独立させ、病棟業務に特化した部門になります。部長のほか指導科長を含めて12

名の薬剤師が1人1病棟を受け持ち、自分の担当病棟といった意識をもって安心・安全な薬物療法の推進に取り組んでいます。

主な業務としては、入院時に持参した薬の確認、服薬管理状況やアレルギー、副作用歴等の確認、新たな薬物治療の開始時の説明及び副作用の確認、退院時の服薬説明などを行っています。

また、薬剤師ならではの視点から副作用対策や持参した薬の代替薬の処方提案、作用が重複する薬、相互作用のある薬や手術前に中止する薬のチェック、病棟医薬品の管理、カンファレンスへの参加、病棟勉強会の開催や多職種で行うチーム活動にも参加しています。

遺伝性がん「当事者からの手紙」写真パネル展

リスク評価室 井本逸勢、高磯伸枝、市川眞琴

去る5月10日（火）から6月10日（金）まで、病院1階のアトリウムにて「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を開催しました（写真1）。遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）の当事者の想いや家族への愛、仲間へのエールなどがつづられた手紙や写真、東海地域で活動する認定遺伝カウンセラー®のパネルなどおよそ20枚を展示しました。

HBOCは、BRCA1/2遺伝子の生まれつきの変化が原因で、乳がんや卵巣がんなどになりやすくなる体質です。遺伝的な体質を知ることが、ご自身の治療に役立つと同時に、今後ご自身や血縁者の健康への影響がわかることがあります。

このパネル展は、「遺伝」と「がん」の理解を社会に広めようとHBOC当事者会の協力で2018年から日本各地で開催されており、当院では2回目の開催です。ご覧になった方の感想（写真2）からも、多くの方に遺伝性のがんについて関心を持っていただく機会となったことがわかりました。6月5日（日）には、HBOCに関する公開講座もWEBで開催し、全国から80名の参加がありました。今後も、みなさまに有用な情報を発信してまいります。



写真1：写真パネル展の様子



写真2：付箋に感想を書き添えていただきました

AYA世代のがん（第1回公開講座を開催しました）

婦人科部長 鈴木史朗

愛知県がんセンターでは、がんの予防及び知識啓発を目的とした公開講座を開催しています。新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、2022年度も昨年度に引き続き、収録した講演内容（動画）のオンデマンド配信形式で開催を予定しております。

本年度第1回公開講座（配信期間：5/13～5/27）のテーマは、「AYA世代がん患者の悩みとその支援」でした。AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期と若年成人）の頭文字をとったもので、15歳～39歳までの世代を指しています。就学・就労、結婚や出産・育児等といったライフステージ上の重要なイベントが起こる時期であるため、AYA世代のがん診療では、同世代特有の様々な悩み・問題点に配慮した多角的な支援が必要です。本講座では、がん・生殖医療（妊孕性温存）、当院の支援体制および活動状況、さらには行政（愛知県）の支援取り組みについて、4題計4名の演者から情報提供させていただきました。

AYA世代がん患者の悩みとその支援

AYA世代がん患者に対する妊孕性温存
婦人科部 部長 鈴木史朗

愛知県がんセンターにおけるAYA支援チーム活動と支援
看護部/緩和ケアセンタージェネラルマネージャー 吉川恵

愛知県がんセンターにおけるAYAがん患者相談支援体制
相談支援室 室長補佐 野崎由美子

愛知県におけるAYA世代がん患者支援
愛知県保健医療局 健康医務部 健康対策課
がん対策グループ 課長補佐 井城 茜



新任医師の 紹介



のざわかすき
能澤一樹
ゲノム医療センター

2022年5月よりゲノム医療センターがんゲノム医療室に着任しました能澤一樹と申します。がん遺伝子パネル検査に関する説明、結果の解釈や検査結果説明を担当している他、乳癌を中心に実臨床も担当しています。がんゲノム医療に対する様々な疑問・期待にお応えできるよう尽力します。宜しく申し上げます。



かとう まなぶ
加藤 学
泌尿器科部

はじめまして、2022年7月1日から愛知県がんセンター泌尿器科部に赴任となりました。加藤学と申します。前任地は三重大病院になり、多くのがん患者さまの診療を経験しております。変化する病状に応じて最善の治療を行いたいと思います。今後ともどうかよろしくようお願い申し上げます。

とうろく医探訪 No.24

Produced by
地域医療連携・相談支援センター

まつした整形外科 院長:松下 廉 先生



愛知県がんセンターの先生方ならびにスタッフの皆様方には日頃より病診連携を通じて大変お世話になり、誠にありがとうございます。まつした整形外科はJR中央線の春日井駅から徒歩12分くらい北に位置しております。整形外科、リハビリテーション科を標榜しており、一般整形外科をはじめ、専門としてきた骨軟部腫瘍や骨粗鬆症の診断、治療にも力をいれております。私ごとではありますが、私も以前、愛知県がんセンターに患者としてお世話になったことがあります。足底にできた病変をてっきり「ほくろのがん」と思い込み、当時形成外科におみえになった兵藤先生に切除していただきました。幸い悪性腫瘍ではありませんでしたが診断がつくまで気分的に落ち着かず、手術の際はスタッフの方々にご迷惑をおかけしたと思いますが、皆さんに大変親切に対応していただきとても感謝しております。

そのこともあって当院を受診された腫瘍の疑いのある患者さんに愛知県がんセンターをご紹介させていただいております。筑紫先生をはじめ整形外科の先生には特にお世話になっており、ご紹介した患者さんの中には愛知県がんセンターのような高度がん専門病院で治療しなくてもよいような良性疾患の患者さんをご紹介してしまうこともあります。いつも親切かつ丁寧に対応していただきありがとうございます。また日々の診療でお忙しいにもかかわらず紹介後の経過や結果について詳細に教えていただき大変感謝しております。コロナ下での診療は大変かと思いますが、どうぞ健康には気をつけられて、今後ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

【医療機関情報】

まつした整形外科



診療科目/整形外科、リハビリテーション科

電話/0568-82-0333

所在地/〒486-0851 春日井市篠木町 2-6-1

ホームページ/<https://matsushita-seikei.com/index.html>

整形外科	診療時間(受付開始時間)	月	火	水	木	金	土	日祝
	9:00-12:00(8:30)	○	○	○	○	○	○	○
16:00-19:00(15:30)	○	○	○	/	○	/	/	/
リハビリテーション科	8:30-12:30(12:20)	○	○	○	○	○	○	/
	13:00-16:00(予約制)	○	○	○	/	○	/	/
	16:00-19:30(15:30)	○	○	○	/	○	/	/

お車:クリニック横の駐車場、第2P(10台)、第3P(19台)あり
電車:JR中央線「春日井」駅から車で5分程度、徒歩12分程度
バス:名鉄バス「総合福祉センター前」下車、すぐ目の前



編集後記:第24回は春日井市のまつした整形外科、松下廉(まつしたやすし)先生です。整形外科、リハビリテーション科を標榜し、一般整形外科のみならず、骨粗しょう症外来、スポーツ整形外科、コブ外来(腫瘍外来)という専門外来を展開されています。ご専門が骨腫瘍、軟部腫瘍であり、ホームページでも「痛くない次第におおきくなるコブ(しこり)は要注意!」と、「肉腫ではないこと」をしっかりと診断することの重要性を啓蒙されてみえます。今後ともよろしくお願いたします。 Y,SANO

大腸がんが転移するメカニズムの解明に挑む

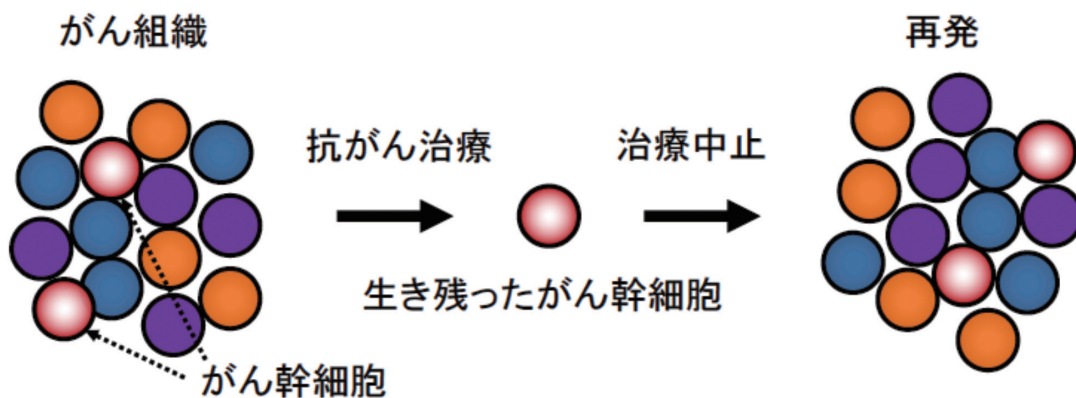


がん病態生理学分野 分野長 青木 正博

大腸がんは早期に発見できれば比較的予後のよいがんですが、肝臓や肺などへの転移を伴う場合、治療に難渋することが多くなります。がんは複数の遺伝子の突然変異や発現異常が積み重なることで悪性化していきますが、大腸がん細胞が転移する能力をどのように獲得するのか、そのメカニズムの詳細は未だにはっきりしていません。一方で近年、がんを形作っているがん細胞は均一ではなく、がん幹細胞と呼ばれる、女王蜂のような大元となる細胞が存在し、このがん幹細胞が転移や再発の際に重要な役割を果たすことが分かってきています。

私たちは最近、遺伝子改変によって、悪性度が高い大腸がんを自然に発症してそれが肝臓に転移するようなマウスを作り出すことに成功しました。そして、このマウスに生じた大腸がんの原発巣や転移巣の詳細な解析から、大腸がん幹細胞の維持に重要な分子を同定し、それらの分子の機能を失わせると大腸がん細胞の転移する能力が著しく損なわれることを見出しました。

この研究をさらに推進することによって、大腸がん幹細胞を標的とした、転移や再発を制御する新しい治療法の開発につなげたいと考えています。



図：がん幹細胞は、がん組織中の多彩ながん細胞を作り出す、女王蜂のような存在です。がん幹細胞はめったに増殖しないので、抗がん治療が効きにくく再発の元となり、転移の際にも重要な役割を果たします。

昨年度（2021年度）2名の研究所員が学会賞を受賞しました。

研究所員は、日々行っている研究の成果を学術誌へ論文投稿したり、学会で発表したりしています。各学会では、研究者をエンカレッジするため、優秀な発表をした研究者に対し学会賞を授与しています。

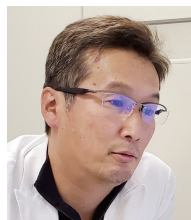
昨年度は、2名の若手研究者が見事に学会賞を受賞しました。受賞者が益々研究を邁進することを期待します。

第80回日本癌学会学術総会 JCA若手研究者ポスター賞

腫瘍免疫制御
トランスレーショナルリサーチ分野
松井 琢哉 任意研修生

第18回日本免疫治療学会学術集会 優秀演題賞（江川賞）

腫瘍免疫制御
トランスレーショナルリサーチ分野
篠原 周一 任意研修生



直腸癌の治療 ～ロボット支援手術～

消化器外科部 医長 木下 敬史

大腸癌の治療では、目に見える癌をすべて切除できる場合には、手術で大腸癌の病変と周囲のリンパ節を十分に切除することが最もよい治療法です。しかし、大腸癌のなかでも病変が肛門の近くに存在する直腸癌においては、手術を行うことで永久の人工肛門が必要になったり、開腹手術による大きな傷やストレスを受けたりで、患者さんの心身に大きなダメージを与えてしまいます。当院では以前より、直腸癌に対して、同じ切除範囲で癌の根治性を保ちつつ、できる限り肛門を温存し、お体のダメージを最小限にする低侵襲手術（腹腔鏡手術）を行ってきました。さらに2018年4月よりダヴィンチ手術システムという最先端の手術用ロボットを用いた手術が保険適応となり、当院は導入しています。小さな傷からロボット手術機器を挿入し、モニターを見ながら手術を行います。おなかの中の3D画像を拡大した画面を見ながら、先端が自由に曲がるロボット機器を使用して手術を行います。これまでの手術よりも繊細な操作が可能です。手術創が小さいため、術後の痛みが少なく回復が早いことは腹腔鏡手術と同様です。更に、狭い骨盤内においても操作性に優れたロボットによる繊細な手術で、出血も少なく、排便・排尿・性機能に関わる神経温存、そしてより肛門の温存が可能となっています。



コンソールで操作を行う執刀医



出血のほとんどない実際の術野

リハビリテーション部の紹介

リハビリスタッフは、現在リハビリテーション医が1名、理学療法士が5名、作業療法士と言語聴覚士が各1名となっています。

新型コロナウイルス感染対策として、理療士は入院患者さんと濃厚な接触が必要な職種なので、十分に感染対策を行って患者さんと接するように心がけています。

視聴覚室では、リハビリが順調に進まない患者さんについて、主治医や病棟看護師にも参加してもらって毎週多職種でカンファレンスを行っており、連携して益々充実したリハビリにしたいと考えています。

現在の地下室にある第二リハビリ室が、地上の部屋への移転が検討されており、効率よく実施できるのを期待しています。



写真：スタッフ一同

膀胱がんにおける最新治療

— 個々の患者さんに最適な治療の提供をめざして —



泌尿器科部 部長 小島 崇宏

膀胱がんは、血尿や尿閉、腎不全などさまざまな臨床症状を呈して患者さんのQOLの悪化に直結します。年々増加する高齢の膀胱がんの患者さんをどのように治療、管理していくのか大きな課題に直面しております。個々の患者さんに最適な治療が提供できるように、診療体制を一層整備しております。

筋層非浸潤がん：光力学診断を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除を導入しております。前がん病変の同定や微小な腫瘍の切除を可能にすることで再発率の低下が可能になります（図1）。

筋層浸潤性がん：標準治療は膀胱全摘術ですが、手術の体への負担が大きく、さらに尿路変更によるストーマが必要になります。手術が困難、または拒否されることにより膀胱全

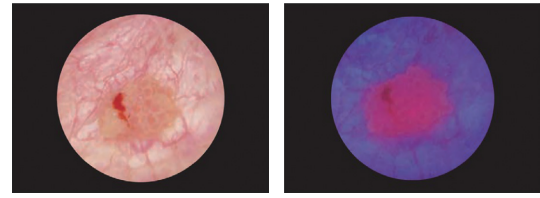
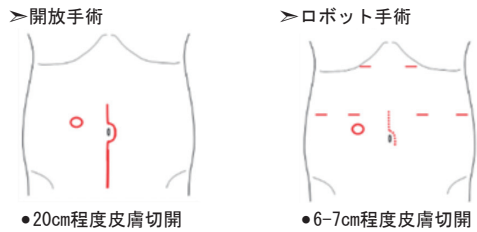


図1. 光力学診断を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除



拡大視野のロボット手術 → 出血量、入院期間が減少

図2. 開放手術とロボット手術の手術創の違い

摘術を行うことができないことが多々あります。昨年からはロボット支援下膀胱全摘術を開始いたしました（図2）。これまでの開腹手術に比べて体への負担が明らかに少なく、高齢で全摘が困難であった方にも施行が可能です。全摘後の尿路変更も、患者さんの状態、ニーズに応じて、すべての尿路変更

（尿管皮膚ろう、回腸導管、新膀胱）に対応が可能です。さらに、放射線治療部と連携を行い、化学放射線治療による膀胱温存療法にも積極的に取り組んでいます（図3）。低用量の抗がん剤と放射線治療により、膀胱を摘出せずに温存することが可能です。がん専門病院として、確かな知識、技術のもと、個々の患者さんに最適な治療を提供してまいります。

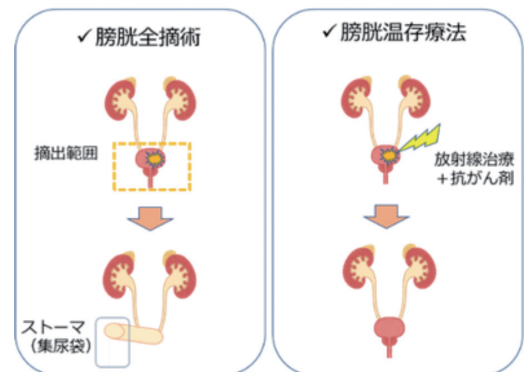


図3. 膀胱全摘術と膀胱温存療法の概略

麻酔科部の紹介

麻酔科部では手術麻酔を行っています。手術中の出血や緊急事態に協力して対応しています。名古屋大学や藤田医科大学等の施設からも応援を頂き、全ての全身麻酔はスタッフもしくは同等の麻酔科医が責任を持って管理しています。麻酔科医はチーム医療の一員として、患者さんにとってより良い方針を他科の医師や看護師と協力して立案・実行し、手術が安全に行われ、痛みが可能な限り少なくなるよう手を尽くします。

写真：左から、原真人（医長）、栃井都紀子（医長）、水谷吉宏（医長）、仲田純也（部長）、中井愛子（医長）、小林一彦（医長）、伊東仁美（医長）、岡崎大樹（医長）



医療連携のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分(祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892(直通)
FAX	052-764-9897(24時間稼働しております。)
ホームページ	https://cancer-c.pref.aichi.jp 「医療関係者の方へ」→「医療連携」をクリックしてください。

外来診療担当表

受付時間	午前8時30分から午前11時30分(都合により診察医の変更あるいは休診の場合があります)				
休診日	土、日、祝日、年末年始				
※医師名の後の数字は、月の週を表します。 ※(SO)はセカンドオピニオン診療だけの場合に表します。 ※(初)ー(初診)・(再)ー(再診) 2022年7月1日					
診療科目	月	火	水	木	金
総合初診	稲葉	原	室	堀尾	田近
消化器内科	原(初) 田中(初) 奥野 山田(SO) 倉石 水野(再)(SO)(第2・4)	原 田近 山田(初) 桑原	原 羽場 田近(SO) 山雄(SO)	丹羽(初) 水野(再) 奥野 田中 大西(初)	田近(初) 水野(再) 山田(初) 桑原 田中(SO) 羽場
呼吸器内科	渡辺(初) 山口(再) 堀尾(再)	藤原(初) 山口(再) 渡辺(再) 大矢(再)	清水(再)(初) 大矢(再) 藤原(初)	山口(初) 堀尾(再) 清水(再)(再) 渡辺(再)	堀尾(初) 山口(再) 藤原(初) 大矢(再)
循環器科	山本(再)			山本(再)	
血液・細胞療法	田地(初・再) 柳田(再)	加藤(再)(初・再) 森島(SO) 山本(再)(再) 大野(随時)	田地(再) 齋藤(初・再) 森島(SO) 大野(随時)	齋藤(再) 大野(随時) 山本(再)/籠谷(初)	加藤(再)(再) 柳田(初・再)
薬物療法	安藤(初) 室(初) 舩石(初)	門脇(初) 谷口(初) 本多(初)	室(初) 本多 成田(初) 舩石(初)	谷口(初) 門脇 舩石	安藤(初) 門脇(初) 谷口(初) 成田(初)
頭頸部外科	花井(再) 寺田(第1・3・5)(再) 別府他(初)	鈴木(再) 西川(第1・3・5)(再) 別府(第2・4)(再) 澤部他(初)	花井(初) 澤部(再)	花井/寺田(第2・4)(再) 西川(再) 鈴木他(初) 寺田(第1・3・5)(再)	別府 澤部(第1・3・5)(再) 鈴木(第2・4)(再) 西川他(初)
形成外科	高成/中村 奥村	高成 奥村 丸山 中村	高成 丸山 中村	高成 奥村 丸山 中村	
呼吸器外科	高橋(初)	鈴木 黒田(初)	坂倉(初)	黒田(初)	鈴木 黒田(初) 坂倉
乳腺科	片岡(再) 小谷/遠藤(初) 澤木(再) 岩田(SO)	岩田(再) 吉村/片岡(初) 服部(再) 能澤(再)	小谷(再) 服部(初) 吉村(再) 岩田(SO)	小谷(再) 岩田(初) 能澤(再) 安藤(再) 澤木(再)	服部(再) 澤木(初) 吉村(再) 岩田(SO) 片岡(再)
消化器外科	松垣 安部 三澤(第2・4週) 伊藤(再)(第1・3・5週)	三澤 木下(再) 奥野(再)	小森(再) 伊藤(再) 清水(再)	夏目 伊藤(再) 大内 安部(初)	佐藤 安部(SO) 浅野(初) 棚野(SO) 藤枝
整形外科・サルコマセンター外来	濱田(初) 筑紫(初) 吉田(初)	筑紫(初)	吉田(初)		濱田(初) 藤原(初)
脳神経外科	灰本		大野	灰本	大野
泌尿器科	小島(初) 田中		小島 北野		北野(初) 田中(初)
婦人科	森(初)	鈴木(初) 渡邊 坪内(初)	坪内(初) 安井(初)	鈴木(初)/森 第1・3・5週 安井(初)/森(初) 第2・4週	渡邊(初)
放射線診断科	稲葉(初) 村田	長谷川(初)	稲葉(初) 山浦		稲葉 加藤
放射線治療科	古平(初) 立花(再) 小出(再)	古平(再) 立花(初) 小出(再)	古平(初) 立花(再)	古平(再) 小出(初)	立花(初) 小出(初)
精神腫瘍科	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)
緩和ケア科・ペインクリニック	下山(午後)	下山(午前)	下山(午後) 木村(午後)	下山(午前)	下山(午後) 長谷川
遺伝カウンセリング	井本	井本	井本	井本	井本
がんゲノム外来	能澤	衣斐	能澤	新津	足立
※現在は、当院受診中の患者さんのみ受け付けております。					
糖尿病外来	細川(午後)			細川(午後)	
腎臓内科				担当医(午後)	
皮膚科	森	森	横田	森	
眼科		立川(午前のみ)			立川(午後のみ)
リンパ浮腫		中村(午前)		中村(午前)	
※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く) ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)					

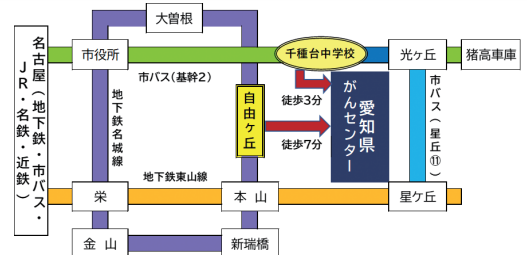
交通のご案内

★公共交通機関のご案内

- 地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
- 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でのアクセスのご案内

- 一般道路 本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- 高速道路 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分



愛知県がんセンター

第81号 2022年7月発行

〒464-8681 名古屋市中千種区鹿子殿1番1号 TEL052-762-6111(代)

ホームページ：https://cancer-c.pref.aichi.jp

編集：運用部 経営戦略課 企画・経営グループ

「がんセンターNEWS」に関するご意見・ご感想は mail : kohonews@aichi-cc.jp または fax : 052-764-2963 にてお寄せください。なお、個別の返答は致しかねますので予めご了承ください。

